金融仲介機能のベンチマークについて

2026年10月

「金融仲介機能ベンチマーク」の公表について

- ＪＡグループでは「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」を目指しています。
- ＪＡバンクは「農業・くらし・地域領域の多様なニーズに対して、総合事業性を活かした金融仲介機能を発揮し、支持・期待され続けている姿」を目指し、JAグループの目指す姿の実現に向けて信用事業を起点とした役割を発揮します。
- 今回、ＪＡバンクの金融仲介機能の発揮状況として、これまでの幅広い取組みの中から「取引先の経営改善や成長力の強化への取組み」をベンチマークとして公表するとともに、今後も「金融仲介機能のベンチマーク」を活用し、お客さまのニーズや経営課題の解決につながる本業支援・融資支援などに積極的に取り組み、地域経済の活性化に努めてまいります。

参考｜「金融仲介機能のベンチマーク」について

2016年9月、金融庁が金融機関における金融仲介機能の発揮状況を客観的に評価する指標として「金融仲介機能のベンチマーク(以下「ベンチマーク」という。)」を公表いたしました。これは、私どもＪＡバンク中期戦略で掲げているＪＡバンクの目指す姿そのものであり、「農業所得向上・地域活性化」の実現に向け、不断の取組みを継続してまいります。

- JAバンクでは、「金融仲介機能ベンチマーク」の公表に併せ、「地域密着型金融の取組み」についても公表を行っております。
- 農業・地域社会に貢献する地域密着型金融の取組みとして、①農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援、②担い手の経営のライフサイクルに応じた支援、③経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供、④農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献の４項目について、公表を行っております。

1 取引先の経営改善や成長力の強化

■ ＪＡバンクでは、農業者のみなさまのライフステージに応じた融資・出資を通じ、経営改善や成長力の強化にかかるサポートに積極的に取り組んでいます。

①ライフステージ別の長期資金残高（2026年3月末） 18,026億円

新規就農 ＞ 就農後 ＞ 法人化・事業拡大 ＞ 事業発展 ＞ 承継再生 ＞ 農業関連団体等

		ライフステージ別の長期資金			その他農業関連資金
		新規就農関連資金	農業近代化資金	負債整理資金	その他農業関連資金
プロパー・制度資金	JA信連	25億円	2,144億円	645億円	3,404億円
			アグリマイティー資金 2,634億円		
			農機ハウスローン 1,245億円		
			その他農業者向け資金 2,690億円		
	金庫	農業者向け資金 316億円			農業者向け資金 676億円
日本公庫受託資金		青年等就農資金 599億円	農業経営基盤強化資金（スーパーＬ） 3,647億円		

※上記残高は、長期資金(災害資金除く)のみを集計しているため、ディスクロージャー誌等の残高数値と異なります。
農林中央金庫の貸出金残高からは、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化支援資金等の制度資金の原資資金を除いております。

②アグリ社を通じた出資金額（2026年3月末累計投資額） 182億円

	アグリシードファンド	担い手経営体応援ファンド	プロパーファンド	SFVCファンド	復興ファンド
アグリ社ファンド	28億円	10億円	80億円	45億円	19億円

資本供与の取組み（ファンド活用）

実施主体

ＪＡ津軽みらい、
アグリビジネス投資育成㈱
（アグリ社）、
農林中央金庫 青森支店

りんご生産法人へのアグリ社による出資支援

JAバンク 青森

JA津軽みらい

農林中央金庫青森支店では、りんごの高密植栽培への改植を進める農業法人に対し、取引JAと連携し、アグリ社による出資を活用した支援を行いました。**高密植栽培は、初期投資が大きく、植栽から本格的な収益化までに3～4年を要することから、最長10年間保有できる出資の特性を活かし、本格的な収益化までの資金負担の軽減と経営の安定化を後押ししました。**

法 人 名	**もりやま園㈱（青森県弘前市）**
業　　種	りんご、シードル
出 資 額	10百万円（アグリシード）

写真中央：もりやま園㈱　森山社長
写真右側：JA津軽みらい　一戸さん
写真左側：農林中金青森支店　工藤さん

当社シードル＆ソーダラインナップ（全10種類）

出資先の特徴・将来性

①スマート農業への取り組み

- ✓ スマート農業の前向きな導入を積極的に進めている。
- ✓ 果樹１本１本に、品種・配置・二次元コードを示すツリータグを設置し、作業者がスマホで読み取ることで、**作業を可視化できるシステム（Agrion果樹）**を、システム会社と組んで自社開発。

Agrion果樹

②摘果りんごを活用したシードル生産

- ✓ 主力商品の「テキカカシードル」、「テキカカアップルソーダ」の**「テキカカ」とは摘果作業で摘み取られる未成熟な果実**のこと。未熟な実は外敵や病気から身を守るために、苦みや渋み、酸味の元であるポリフェノールを豊富に蓄えている。
- ✓ 「テキカカシードル」はジャパンシードルアワード2019で大賞受賞。

摘果りんごとシードル

③事業拡大意欲が強い

- ✓ もりやま園㈱ではイタリア・南チロル地方を現地視察し、従来の丸葉栽培から**高密植栽培への切替えを進め、収量増加を図っていく**計画。
- ✓ 本栽培方式のメリットとして、**早期多収による投資回収の迅速化**が挙げられる。

高密植栽培園地

当社への支援

①出資ニーズに応えたアグリ社による出資対応

- ✓ 法人協会イベントにて**自己資本増強のための出資ニーズを捕捉してから、JAと連携し迅速に出資対応。**

②近代化資金を活用した低利な融資支援

- ✓ **アグリ社出資を契機に高密植栽培への改植資金7百万円の近代化資金申込**に至った。今後も引き続きJAによる融資支援を行っていく。

③高密植栽培にかかるJAの資材販売提案

- ✓ 高密植栽培に必要となるトレリス等の資材について、**JA全農あおもりと連携し、系統資材の提案を実施。**

アグリ社の声

- ✓ 協会イベントでの初顔合わせの翌週には初面談を実施するという異例のスピード感で案件化しました。その背景には、JAが日頃の接点を通じて財務面の課題を把握し、解決策の一つとしてアグリ社をご紹介いただいたことがあります。
- ✓ JAと農林中金による日常的な事業支援の延長線上に、今回の出資実現があったものと考えております。